
2019年 東京モーターショー 主な出品車の商品概要

Last up date:2019.11.26

Copyright©Consumer's Research All Rights Reserved.

当資料の一切の権利は（株）コンシューマーズ・リサーチに帰属しており、第三者へ提供する目的で情報を加工、再利用及び再配信することを固く禁じます。

1、TOYOTA	— — — — —	2 ~ 9
2、HONDA	— — — — —	10 ~ 12
3、NISSAN	— — — — —	13 ~ 14
4、SUZUKI	— — — — —	15 ~ 17
5、DAIHATSU	— — — — —	18 ~ 19
6、MAZDA	— — — — —	20
7、SUBARU	— — — — —	21
8、MITSUBISHI	— — —	22 ~ 23

1、日本でEVを普及させる為の超小型EV

・小型、近距離、法人利用などモビリティとして、新たなビジネスチャンスを狙った車。

<超小型EV>

<超小型EV ビジネス向け コンセプトモデル>



<歩行領域EV>

座り乗りタイプ 立ち乗りタイプ 車いす連結タイプ



<TOYOTA i-ROAD>



<スペック他>

名称	超小型EV	超小型EV ビジネス向け	歩行領域EV 立ち乗り タイプ	歩行領域EV 座り乗り タイプ	歩行領域EV 車いす連結 タイプ	TOYOTA i-ROAD
発売時期	2020年冬	—	2020年冬	2021年	2021年	—
乗車定員	2名	1名	1名	1名	1名	1名/2名
全長 (mm)	2,490	2,490	700	1,180	540	2,345
全幅 (mm)	1,290	1,290	450	630	630	870
全高 (mm)	1,550	1,550	1,200	1,090	1,090	1,455
最高速度	60km/h	60km/h	2、4、6、 10km/h (切り替え可)	2、4、6km/h (切り替え可)	2、4、6km/h (切り替え可)	60km/h
航続距離	100km	100km	14km	10km	20km	50km
充電時間	5時間 (200V)	5時間 (200V)	2.5時間	2時間	2.5時間	3時間

<想定用途>

超小型EV		免許を取りたての人や高齢者などの、買い物等の日常の近距離移動
超小型EV ビジネス向け		短距離の営業や巡回業務など、短距離移動と離駐車を繰り返す業務での活用
歩行 領域 EV	座り乗りタイプ	荷物が多い時の移動や歩行に支障がある人の移動
	歩行領域EV	空港、工場など大規模施設での巡回、警備。手荷物を持った移動
	車いす連結タイプ	大規模施設、観光地での手動車いすの人へのレンタル
TOYOTA i-ROAD		2輪車サイズながら転倒しにくい特徴を活かした近距離移動

2、e-Palette（イーパレット）

- ・Autono-MaaS専用EVとして、オリンピック・パラリンピックに十数台提供し、選手村内を巡回するバスとして選手や大会関係者の移動をサポート。
- ・オリンピック/パラリンピックの選手から、選手村内での生活の様子をヒアリングし、より快適で便利なモビリティを実現するための工夫を反映との事。



全長／全幅／全高／WB	5,255／2,065／2,760／4,000 mm
乗員	20名（オペレーター1名含む） 車いすの場合 4名＋立ち乗り7名
航続距離	150km程度
最高速	19km/h

（1）デザイン

- ・前後対称の箱型デザインを採用し、タイヤを四隅に配置することで、広い室内空間を確保。
- ・身長に関係なく使いやすい手すりやシート、色弱者の方にも配慮し色の明度差をつけた床・内装トリム・シートなど、“Mobility for All”の体現を目指したとの事。

（2）パッケージ

- ・大開口スライドドア、低床フロア、電動スロープ、停留所への正着制御の採用により、車椅子ユーザーを含めた複数人のスムーズな乗降を実現。
- ・ロングホイールベース、フラットフロアにより、最大4名の車椅子ユーザーの乗車が可能。

（3）自動運転

- ・専用開発の自動運転システムを搭載し、高精度3Dマップと運行管理による低速自動運転を実現（レベル4相当）。
- ・周囲360°の障害物を常に検知し周囲の状況に応じて、最適な速度で運行。
- ・また、システム異常時には、車両に同乗するオペレーターが安全に車両を停止できる緊急停止ブレーキを装備。
- ・自動運転時に歩行者とコミュニケーションができるよう、車両の状況を周りに知らせるフロント及びリアのランプを採用。



3、LQ

- ・人工知能や自動運転など、人に寄り添う新しいテクノロジーにより「新しい時代の愛車」を具現化したコンセプトカー。「クルマと人」「クルマと社会」の新しい関係を提案との事。
- ・搭載されている新技術は、近い将来市販車へのフィードバックが予想され、要注目。



<諸元>

全長	4,530mm
全巾	1,840mm
全高	1,480mm
WB	2,700mm

乗車定員	4人
パワートレイン	EV
車両重量	1,680kg
航続距離	300km程度

<特徴装備>

①自動運転レベル4。

②無人自動バレーパーキングシステム

駐車場において、乗降場と駐車スペース間で無人自動運転ができるシステム。

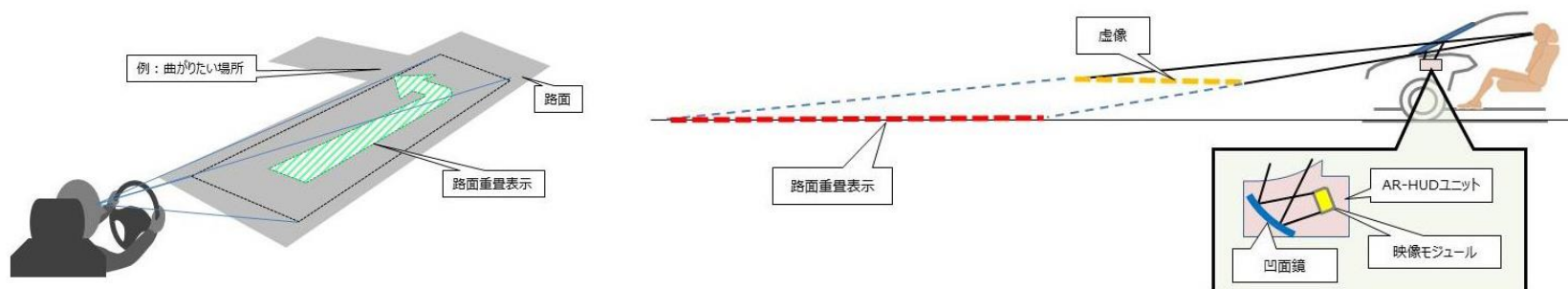
駐車スペースを探す必要がなくなり、高齢者や体の不自由な人などに加え、駐車が苦手な人の負担を軽減する。

また、隣接する車両と20cm間隔で駐車できるため、駐車場の省スペース化に貢献。

③AR-HUD

AR (Augmented Reality) によってHUDの情報表示エリアを拡大し、ウインドシールド越しに見える風景に、注意喚起情報(車線、標識など)や経路案内などの情報を立体的にわかりやすく表示。

また、車両前方7m~41mの奥行を持つ(230インチ相当)大画面表示によって、ドライバーの視線移動を低減する。



④覚醒・リラックス誘導機能付きシート

ドライバーが眠気を感じている場合は、シートバック内のエアブラダーを膨らませることで背伸びのような姿勢をサポートするとともに、シート空調の冷風刺激によってドライバーの覚醒を促す。

自動運転モードなどドライバーがリラックスできるときは、シートバック内のエアブラダーを徐々にゆっくりと膨張・収縮させ腹式呼吸をサポートすることで、より深いリラックスを誘導する。

⑤新しいHMI機能

車両のルーフやフロアマットをHMI領域として活用し、乗員に直感的でわかりやすく情報を伝える。

ルーフやフロアマットの中にイルミネーション機能を搭載することで、自動運転モードと手動運転モードで異なるカラーを点灯させる。

また、ヘッドランプに内蔵された100万個の微小なミラーの切り替えによって、複雑な図形や文字を路面に描画することができるDMD（Digital Micromirror Device）式ヘッドライトによって、ドライバーに路面状況を知らせたり、車内外のコミュニケーションが可能となる。



4、ヤリス

- ・現行ヴィッツの後継車（グローバルプラットフォームに変更）。従来同様Bseg ハッチバックタイプ。
- ・商品テーマは、「走る楽しさと、世界最高レベルの低燃費、先進の安心安全技術を備えたコンパクトカーの域を超える、新世代コンパクトカー」。
- ・TNGAプラットフォームを採用し、軽量かつ高剛性、低重心なボディを実現。走る楽しさに加え、ハイブリッド車で世界最高レベルの低燃費を目指しているとの事。
- ・日本での発売は2020年2月中旬。

(1) 外観デザイン



- ・デザインコンセプトは「B-Dash!」。大胆（BOLD）に、活発（BRISK）に、そして美しく（BEAUTY）。鋭い加速で、弾丸のようにダッシュ！するイメージ。
- ・ムダをそぎ落した凝縮キャビンと、ボディ中心から前後タイヤに向かう引き締まった造形で、今にも走り出しそうな、アクティブで躍動感のあるデザインを表現との事。

参考：現行ヴィッツ



(2) 内装デザイン



- ・ムダをそぎ落として広さと快適さを確保し、運転に集中できる空間を表現。インパネ断面を薄くしてワイドな印象を付与したほか、ステアリングホイールを従来より小径化することで、室内をより広く、スポーティーな印象を持たせたとの事。

(3) 主な装備

- ・高度駐車支援システム「Advanced Park」
- ・交差点右折時の対向直進車、右左折後の横断歩行者も検知対象とした最新の「Toyota Safety Sense」
- ・楽に乗り降りできる「ターンチルトシート」
- ・スマートフォンとの連携ができる「ディスプレイオーディオ」
- ・外部給電機能（1,500W）をハイブリッド車にオプション設定

<ターンチルトシート>



(4) エンジン、パワートレイン展開

エンジン	ミッション	駆動方式
1.0L	CVT	2WD
1.5L	CVT	2WD/4WD
	6速マニュアル	2WD
1.5L ハイブリッド		2WD/E-Four

5、MIRAI Concept

- ・現行MIRAIの次期車。2020年末に日本や北米、欧州などで発売予定。
- ・「エコカーの域を超えた走りを予感させるダイナミックさと、誰もが思わず振り返るエモーショナルな美しさを併せ持つスタイリングを追求。さらに、走る楽しさを持つクルマづくりに徹底的に拘り、今までにない気持ちの良い走行フィーリングの実現を目指した」との事。
- ・プラットフォームはクラウンやLSと共用。将来技術を搭載したコンセプトカーLQはEVとしているもののFCVも継続していく模様。



参考：現行MIRAI



(1) 外観デザイン

走りを予感させるダイナミックさとエモーショナルな美しさを追求。TNGAプラットフォームの採用により、低重心で伸びやかなプロポーションを実現。さらに、20インチの大径タイヤでダイナミックさと軽快感を付与との事。

(2) 内装デザイン

ドライバーを包み込むようなインストルメントパネルと12.3インチのワイドモニターを取り込んだセンタークラスターにより“運転する楽しさ”と“先進のくつろぎ感”を併せ持つシンプル＆モダンで温かみある空間を追求との事。

(3) 諸元

全長 (mm)	全幅 (mm)	全高 (mm)	WB (mm)	駆動方式	乗車定員 (人)	航続距離
4,975 (+85)	1,885 (±0)	1,470 (-65)	2,920 (+140)	FR [FF]	5 [4]	約30%延長 [650km]

() : 現行との差
[] : 現行スペック

参考：現行車の価格：7,410千円、補助金：約2,250千円

6、グランエース

- ・アセアン地域での高級多人数乗車ワゴンとして、今年8月バンコクインターナショナルグランドセールでワールドプレミア（現地名はマジェスティ）された。ベースはアセアン地域のハイエース。
- ・「上質かつ快適な移動空間を提供する新たなフルサイズワゴン」として、日本でも2019年内に発売との事。

参考：ハイエース



（1）外観スタイル

金属調加飾の大型ラジエーターグリルをヘッドランプと融合させ、上下、左右方向に張り出させることで、華やかかつ、押し出しの強いフロントフェイスを実現との事。

（2）内装デザイン

ブラックを基調とし、空調吹き出し部に金属調加飾、助手席正面に木目調加飾を配して華やかさを演出。またメーターフードには、表皮巻きと本ステッチを施し上質さを表現。

（3）室内空間

- ・3列6人乗りと4列8人乗りを設定。
- ・セカンドシート及びサードシートには、本革キャプテンシートを採用し、ロングスライドやオットマンなどを装備。
- ・後席のお客様を包み込むように、フロントシート背面からサイドトリムにかけて木目調加飾を配し、また加飾に沿ったLEDイルミネーションにより、華やかさと落ち着きのある上質感を表現。

＜諸元＞

	グランエース	参考：アルファード
全長（mm）	5,300	4,945
全巾（mm）	1,970	1,850
全高（mm）	1,990	1,935
WB（mm）	3,210	3,000
エンジン	2.8L D	2.5L、3.5L、 2.5L HEV
駆動方式	FR	FF/4WD
シート	3列（6人）/ 4列（8人）	3列 （7人/8人）

7、LF-30 Electrified

- ・レクサスの次世代電動化戦略のビジョンを象徴するEVコンセプトカー。
- ・LF-30という車名は、2019年でレクサスが創業30周年を迎えたことに由来。
- ・レクサスは2025年までに全車種に電動車を設定し、電動車の販売比率がガソリン車の比率を上回ることを目標としている。直近では2019年11月にレクサス初のEV発表、2020年前半でPHVやEV専用モデルを投入する計画。



<諸元>

全長	5,090mm
全巾	1,995mm
全高	1,600mm
WB	3,200mm
車両重量	2,400kg
最高出力	400kW
最大トルク	700Nm
航続距離	500km
充電電力	150kW
最高速度	200km/h
0-100km加速	3.8秒

<商品特徴>

- ・エクステリアは、インホイールモーターを動力とするEVならではの新しいデザイン表現となっており、インテリアは「人間中心」の思想を具現化。ARによる車両情報表示やジェスチャーコントロール（手綱一本で意思疎通を図る人と馬の関係性がヒントになった新コンセプト「Tazuna」）によるなど、次世代のインターフェースで構成されている。また、環境負荷低減を目指し、フロア、ステアリングホイールなどに日本の伝統素材である焼杉を採用。
- ・その他、ステアバイワイヤやワイヤレス充電、車両に搭載されるAIと乗員の個人端末の連携、ドローンによる玄関からラゲッジルームまでの自動運搬サポートビークル「Lexus Airporter」、ショーファーモード・ガーディアンモードを備えた最先端の運転支援機能など、最新のテクノロジーを搭載。

1、フィット

- ・2001年にデビューした初代から数えて4代目。従来同様Bseg ハッチバックタイプ。
- ・歴代フィットで継承された広い室内空間や使い勝手の良さはそのままに、グローバルで通用する新しい時代のコンパクトカーのスタンダードを目指して開発したとの事。
- ・数値では表せない「感性価値」を追求し、4つの心地よさを具現化。またライフスタイル・ライフステージに合わせてクルマを選べる（松竹梅で無く）ような、5つのタイプを設定。
- ・フロントデザインは、これまでイメージを統一してきたファミリーフェイスとは異なる。
- ・日本での発売は2020年2月（ヤリスと同時期）。



<5つのタイプ>

- ・基本性能を備えた「BASIC」
- ・ナチュラルテイストの「HOME」
- ・ファッショナブルな「NESS」
- ・オフロードイメージを高めた「CROSSTAR」
- ・ラグジュアリーな「LUXE」

全長 (mm)	3,995 (+5)
全巾 (mm)	1,695 (±0)
全高 (mm)	1,525 (±)
WB (mm)	2,650 (+120)
エンジン	1.3L、1.5L、1.5L HEV
駆動方式	FF/4WD

() : 現行との差

<4つの心地良さ>

(1) 心地よい視界

Aピラーを細くし、視界の爽快感や右左折時の視認性を向上。また、インパネを水平で直線基調にし、ワイパーが見えない構造にしている。

(2) 座り心地

フロントシートは、身体をしっかり保持する面支持構造とすることで長時間ドライブでも疲れにくく、やわらかな座り心地を実現。リヤシートは厚みのあるパッドを採用。

(3) 乗り心地

2モーターハイブリッドシステム（名称はe:HEV）により、日常シーンのほとんどをモーターでなめらかに走行。

(4) 使い心地

カバンや上着をすぐ手の届く位置におけるテーブルコンソール。手や足が触れるところにはソフトパッドを使用。

2、Honda e

- ・9月のフランクフルトモーターショーでワールドプレミアしたホンダ初のEVで、Bseg ハッチバックタイプ。
- ・日本での発売は2020年。欧州では既に予約が開始され2020年夏にデリバリー。



(1) 外観デザイン

走りの楽しさと愛着を感じる親しみやすさをシンプル・クリーンに表現。ポップアップ式のドアハンドルや「サイドカメラミラーシステム」などにより、継ぎ目がない滑らかなデザインを実現。

(2) 内装デザイン

ラウンジのような心地良いシンプルな空間をイメージし、2画面の大型タッチパネルモニターを搭載。

(3) 走行性能

新開発のEV専用プラットフォームにより、コンパクトなボディーながらロングホイールベースと短いオーバーハングを実現し、街中での取り回しの良さと優れた走行性能を両立。またモーター後輪駆動により走りの楽しさを実現。

<諸元>

全長	3,985mm
全巾	1,750mm
全高	1,495mm
WB	2,500mm
車両重量	1,400kg
最高出力	152/134hp
最大トルク	315Nm
航続距離	220km
バッテリー容量	35.5kWh
急速充電	80%、30分
前後重量配分	50:50
価格（ドイツ）	29,4701-€

3、アコード

- ・2017年に米国で10代目として発売され、2020年2月日本でも発売される。



<諸元>

全長 (mm)	4,893
全巾 (mm)	1,862
全高 (mm)	1,449
WB (mm)	2,830
エンジン	2.0L HEV
駆動方式	FF

4、フリード

- ・2016年に発売された2代目のマイナーチェンジ。
- ・SUVテイストを付加した、CROSSTARを追加設定。



(1) フリードのフロントデザイン

すっきりとした印象のフロントグリルや、横への広がり感を強調したフロントバンパーなど、ラインを減らしてシンプルな見た目とした。

CROSSTAR



(2) クロスターの外観デザイン

専用のフロントグリル、アンダーガード風の前後バンパー、フロントフォグランプ、サイドシルガーニッシュ、ルーフレール、専用デザインのアルミホイールなどを施している。

1、アリアコンセプト

- ・将来市販化を視野に入れた、クロスオーバーEVのコンセプトカー。
- ・前後に高出力モーターを配置した4輪制御システムを採用。優れた発進・加速性能と滑りやすい路面でのトラクション性能を確保しているとのこと。



全長4600mm、全幅1920mm、全高1630mm

<主な機能>

- ・ハンズオフ走行時の演出
運転支援システム「プロパイロット2.0」を搭載。作動時はインテリアの照明が切り替わり、ハンズオフ走行が可能な状態となると室内空間にリラックスした雰囲気を作る。
- ・ドアトゥドア ナビゲーション
スマートフォンで設定した目的地を車載ナビゲーションと共有し、乗車前後はスマートフォン、乗車中は車載ナビを活用できるもの。乗車前後の徒歩ルートも含め、出発地点から目的地までシームレスにドライバーを案内する。
- ・スマートフォン電子キー
ドライバーが車両に近づくとウェルカムライトが点灯。自動でロックが解除され、保存された好みのシート位置やエアコンが設定される。このほか出発時間を予想して空調をコントロールし、快適な状態を準備をしてくれる。
- ・バーチャル パーソナル アシスタント (VPA)
ルートの途中で友人などをピックアップするときには、友人のスマートフォンと車両のビデオチャット機能がリンクし、友人のいる正確な位置を車載モニター上に表示する。
- ・スマート ルート プランナー
走行中に自動で充電スポットを見つけ、目的地に到着するまでの充電計画を立ててくれる機能。
- ・プロパイロット リモートパーキング
目的地に到着するとをスマホや専用デバイスの操作により自動駐車する。



2、IMk

- 2020年代のEVシティコンピューターを具体化したコンセプトカー。
- 新開発のEVプラットフォームを採用し、主に都市部での移動を想定して開発との事。
（デイズのEV版として発売が予想される）
- 「プロパイロット 2.0」の進化版となる次世代の運転支援技術が装備され、高速道路での運転支援から主要幹線道路に利用範囲を拡大して運転をサポート。
- 目的地に到着すると、ドライバーレスバレーパーキング機能により自動で空いているスペースに駐車。車内ではアバターとなって現れる友人と会話をしながら走行できるなどソーシャルライフも楽しめるとしている。これらが市販車に装着されるかは不明。



1、WAKUスポ（ワクスポ）

- 世代を超えて日常使いでも趣味使いでも、一台で楽しさワクワクを家族内でシェアリングできるパーソナルコンパクトPHEV。
- Aセグメントのコンパクトボディに、車体形状、フロントマスク、インテリア表示コンテンツを切り替えるワクワクスイッチを搭載。一人ひとりの楽しさ、ワクワクに応じてクルマが変化し、みんなで共有できる未来の「小さなクルマ」を提案との事。



(全長3700×全幅1650×全高1430mm、WB2460mm)

<フロントマスクの切り替え>



<インテリア表示の切り替え>



2、HANARE (ハナレ)

- ・ AI、ロボットによる超効率化社会の中でも、「人のつながり」や「人のこだわり」など、人間らしい欲求を大切にし、クルマを所有する新たな喜びを提案する自動運転車。
- ・ 家の「離れ」のようなほどよい大きさの室内空間が移動することで、運転以外の楽しさ、ワクワクを提案との事。



(全長3900×全幅1800×全高1900mm)

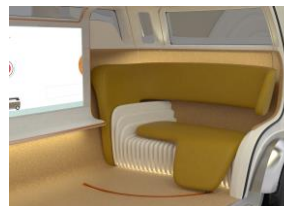
<ステアリングやインパネを無くし空間を最大化>



<収納式シート>



<回転式クッション付きのソファシート>



3、HUSTLER CONCEPT (ハスラー コンセプト)

- ・2014年に発売された現行ハスラーの次期車。現行のイメージを強く残している。
- ・軽量化と高剛性を両立させたプラットフォーム「HEARTECT（ハーテクト）」を採用し、ホイールベースは現行に対し35mm延長。
- ・衝突被害軽減ブレーキ(デュアルカメラブレーキサポート)の夜間歩行者検知、後退時ブレーキサポートを搭載。ターボ車には、全車速での追従機能を備えたアダプティブクルーズコントロール（ACC）と車線逸脱抑制機能を採用。



<諸元>

全長 (mm)	3,395 (±)
全巾 (mm)	1,475 (±)
全高 (mm)	
WB (mm)	2460* (+35)

() : 現行との差

* : 現行ワゴンRと同じ

<参考：現行ハスラー>

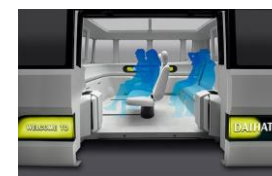


1、IcoIco（イコイコ）& Nipote（ニポテ）

- ・自動運転タイプのパブリックトランスポート。
- ・クルマ椅子や大きな荷物を持った旅行者などの乗り降りを考え、格納式のスロープを搭載。
自宅や目的地の前など細い道でも移動可能な車両サイズで、ファースト/ラストワンマイルでの活用を目指すとの事。
- ・付属のお世話ロボット「ニポテ」は、話しかけることで移動に関わる生活をアシストする。



全長3395×全幅1475×全高1995mm



ニポテ

2、TsumuTsumu（ツムツム）

- ・次世代軽トラックの提案。
- ・キャビン内を広くたレイアウト案や、新発想のドア開口により乗降性向上を実現。
- ・農業用ドローン基地や個室空間など、軽トラックの使い方の幅が一層広がる換装可能な荷台を設定。



全長3395×全幅1475×全高1850mm

3、WaiWai (ワイワイ)

- ・「心地よい広さのジャストサイズミニバン」 みんなで楽しく出かけたくなる開放感あふれる室内空間がテーマとの事。
- ・3列6人乗りの小型ミニバンで、パワートレインはハイブリット。センターピラーレスを採用していますが、タントで培った技術を小型ミニバンクラスで、具現化されるか要注目。



全長4200×全幅1665×全高1665mm



4、WakuWaku (ワクワク)

- ・軽クロスオーバータイプ。ハスラー対向として、市販化が注目される。
- ・後席ドアからクォーターパネルに掛けての大型プロテクターモールが特徴。



全長3395×全幅1475×全高1630mm



5、DAIHATSU 新型SUV (名称無し)

- ・モーターショー終了後ロッキーの名称で発売されたBseg SUV。日本専用で、ボディサイズは5ナンバー枠。トヨタには、一部デザイン変更を施しライズの名称でOEM供給される。
- ・競合車はクロスビーと思われる。

- ・全長3995×全幅1695×全高1620mm WB2525mm
- ・駆動方式:FF/4WD、エンジン:1.0L 3気筒ターボ、ミッション:CVT、タイヤサイズ:195/60R17



1、MX-30

- ・マツダ初の量産EV。Cseg SUVタイプで、CX-30とプラットフォームを共用。欧州のCO2規制対応を主に開発。
- ・ドアは観音開きタイプを採用。安全装備では、被害軽減ブレーキ技術「スマートブレーキサポート（SBS）」に交差点での衝突事故防止機能と白線の無い道路（縁石）での逸脱回避をアシストする機能を追加。
- ・欧州で先行予約を開始し2020年後半からデリバリー予定。



<諸元>

全長 mm	4,395(±)
全幅 mm	1,795(±)
全高 mm	1,570(+30)
WB mm	2,655(±)
タイヤ	215/55R18
バッテリー容量	35.5kWh
航続距離	200km

() :CX-30との差

<参考 : CX-30>



1、LEVORG prototype

- ・ 現行レヴォーグの次期車、2020年秋発売予定。
- ・ ザインフィロソフィーである「Dynamic × Solid」を深化させ、クルマそれぞれが持つ価値をより大胆に際立たせる新デザインコンセプト「BOLDER」を初採用との事。
- ・ 現行レヴォーグは、インプレッサWRXをベースにフロントバンパー、フェンダー及びクォーターパネルから後ろを変更（ワゴン化）したものだが、次期車もインプレッサWRXとの共用化が予想される。
- ・ 安全装備は、新世代アイサイトを採用。広角化した新開発ステレオカメラと前後あわせて4つのレーダーによる360°センシングを実現。見通しの悪い交差点での出会い頭や右左折時まで、プリクラッシュブレーキの作動範囲を拡大したとの事。



2、VIZIV ADRENALINE CONCEPT

- ・ 2019年9月のフランクフルトモーターショーにて発表した、デザインコンセプトカー。
- ・ SPORTSとFIELDの価値をバランスしたコンセプトカーで、ドライビングを愉しみながらギアを積んでどこにでも走って行ける、そんな愉しさや興奮を表現。光と陰が交差するダイナミックかつ立体的な造形により、人の行動を誘発するBOLDERデザインを具現化したとの事。



1、MI-TECH CONCEPT

- 「光と風を感じながら大地を駆け抜ける電動SUV」をコンセプトとし、軽量・小型化した新しいPHEVシステム、4モーター方式の電動4WDシステム、先進の運転支援技術と予防安全技術をスモールサイズのSUVに凝縮した、三菱のブランドメッセージである“Drive your Ambition”を体現するコンセプトカーとの事。



<主な機能>

- 軽量・コンパクトなPHEVシステム

PHEVシステムの発電エンジンとして、従来のガソリンエンジンに比べて軽量・小型なガスタービンエンジンを採用。ガスタービンエンジンはサイズや重量あたりの出力が大きく、排出ガスがクリーンであり、ガソリンだけでなく軽油、灯油、アルコールなど様々な燃料が使用可能。

- 電動4WDシステム

モーター2基で構成する「デュアルモーターAYC」を、前輪と後輪それぞれに搭載した「Quad motor（クアッドモーター）4WDシステム」に、S-AWCを適用。また、ブレーキキャリパーも電動化することで、四輪の駆動力・制動力を高応答・高精度で制御し、旋回性能とトラクション性能を向上。また、左右のタイヤを逆回転させることにより、その場で180度回転できる。

- 先進の運転支援技術、予防安全技術

検知した様々な情報を、フロントのARウィンドウシールドに映し出すHMIを搭載。ARウィンドウシールドには車両状態や路面状況、周囲の交通状況などが表示され、たとえ視界が悪い状況においてもドライバーに的確な注意喚起を行う。



2、SUPER HEIGHT K-WAGON CONCEPT

- ekスペースの次期車。今年度中に発売予定。
- フロントは三菱のフロントデザインコンセプト「ダイナミックシールド」を採用し、サイドはサイドシルガーニッシュとホイールアーチをブラックにしSUVらしさを強調。
- eKワゴンにも設定される高速道路の同一車線でステアリングやブレーキを支援する「マイパイロット」を搭載。



3、MITSUBISHI ENGELBERG TOURER

- 2019年3月のジュネーブモーターショーにて発表した、3列シートSUVタイプのコンセプトカー。
- 4WDシステムは、フロントとリヤにモーターを搭載するツインモーター方式のフルタイム4WDとし、前輪左右の駆動力配分を制御するAYC、四輪のブレーキ制動力と前後モーター出力の制御(ABS&ASC)を統合制御するS-AWCを採用。
- EV航続距離は70km以上、満充電・燃料満タンの状態からの総航続距離は700km以上。

